

研 究 報 告

猪苗代湖のハクチョウ類の飛来時における状態と気象 (1974 S49)

大 森 常 三 郎

本年春における気象概況は暖気をもたらす大太平洋低気圧の通過することなく、寒気を伴う大太平洋高気圧、日本海低気圧の型で通過する機会が非常に多かった。

然うして、飛去する機会、即ち好条件の気流の通過を見ず1月12日を迎えた。

AM 5.00, フライトレーニングを了えた白鳥の大群は白鳥浜沖に集結、梯団毎に整列。一糸乱れずの遊泳は未だ見たことのない奇観であった。そこへ給餌する。採食の状態は何時にもなく不振である。

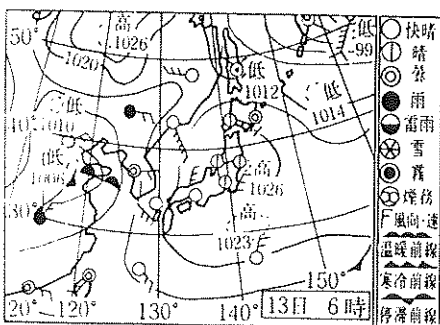
このころより北西の稍冷たい風が吹きはじめ漸次その強さを加え、AM 7-30川崎浜に全部退避した。このときの猪苗代湖に於ける、気象状態は大太平洋岸を本土沿いに進行する2つの高気圧の圏内にあり、晴れ、されど西風が強く、風力5、湖上は白波がたら、PM 5.00頃より阻ぐ。

4月13日 AM 5.00

川崎浜に1夜を過した「ハクチョウ群」は未明既に行動を起してしていた。

猪苗代湖を西に横断したのち、磐梯町磐梯地区上空で飯袋連峰北端目指して約200羽、つづいて志田浜より川桁山系西側沿いに北上する吾妻連峰コースの約100羽の群が見られた。

このときの天気図は次のとおり。



同日 PM 4.30

三城瀨に182羽集結しあり、間もなく半数が風上である南東に向って発進、左にターン白鳥浜の上空で吾妻連峰コースをとる。

続いて残り半数が発進uターン猪苗代町上空を経て磐梯山東麓を通過吾妻越えをする。

同じく5.00川崎浜より転進してきた82羽続く62羽計94羽は前回コースを経て後を遂う。

このときの気圧配置は次の図(略)の如く東方洋上に前日より発達した102.4 m/hの高気圧が大太平洋上高気圧の進路をとっており、この圏内にある猪苗代湖上空に早朝より南西より北東に走る絹雲がみられ、地上の風向もこれに伴う。午後になって風向は稍南に寄り南南東となる。

低気圧は朝鮮にあり前線は東支那海に連らなる。風力は地上10mで(4)上空は時/45kmに及ぶものと想定される。又この絹雲は低気圧の接近を示し荒天の前徴である。

PM 5.00頃絹雲(いわし雲)となる。益々荒天の前徴である。渡来時には高気圧の前線を、飛去時には後縁を北上する。この様相が天気図の上で解明されている。

4月14日 AM 6.00

その後の調査を行なう。残留鳥2羽三城瀨沖にあり(健康状態はさほど悪いとは見られない)

AM 6.30川崎浜に移動する。

4月15日 AM 5.00

残留鳥2羽猪苗代町上空を通過北上す。これで本シーズンの全部を了る。

附 録

1973～4年「ハクチヨウ類」幼苗代湖滞留間における経過と記録。

1. 1973 10/9 例年より約10日早い渡来をみて以来漸次その数を加え、2/10には634羽と新しい記録をつかった。(日本白鳥の会定時定点観測)
2. 2/6 アメリカ、コハクチヨウの渡来確認
1968年日本で初めての確認とされてより2度目、日本では5羽目となる。最後の飛去時までその姿を見られた。
3. 今シーズンは例年になく豪雪と石油危機による水力発電のためと思われる湖面の低下は天然の餌場を奪われ氷雪の張り出しは白鳥浜で約300mに達した。必然的に給餌場の完備(融雪装置)の必要性を痛切に感じた。
4. 2/10 巡視時鳥帽子以東に定着した約300羽(全体の半数)は極度の飢えと衰えを見せるに至った。
(この時点で2羽の飢餓による衰弱鳥2羽を保護収容した。)この群は三城瀨で通年給餌を受け元気旺盛な群と全く対称的であり、後日1部合流したものもあるが全く頑くなな面もみられた。
5. オオハクチヨウ約50羽は3/10 定時定点観測までは認められたが4/1の臨時観測では、その姿を消した。
6. 今シーズン中の落鳥は(鳥帽子浜1, 上戸浜(漂着)1, 稻名目浜1)計3羽であった。

慶

畠山正光氏(小湊)はさる11月3日、勲六等瑞宝章叙勲の榮譽を受けられました。ここにお祝いを申し上げます。

弔

佐藤尚幸先生(酒田市白鳥を愛する会会長・本会監事)はさる11月11日肝硬変のため逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

あ と が き

6月23日の日曜日、東京千代田区の番町共済会館で開かれた日本白鳥の会第二回総会に全国から駆けつけてきてくださった方々は、来賓、顧問をふくめて総勢30名。それぞれ、旅費会費持ち寄りの文字どおり手弁当での参加は日頃の白鳥に対する熱情のしからしむるところかと思ひ、感銘を深くいたしました。

当日は、環境庁自然保護局鳥獣保護課長補佐の友田安雄氏ほか三名のご来賓、それに顧問の山階芳麿先生のご出席もいただいて、午前10時から午後4時まで6時間にわたり熱心に議事の進行、消化にご協力をいただきました。ここにあらためて厚くお礼を申し上げます。

当日の議事の価値ある内容につきましては、細大もろさず収録するよう努めたつもりですが、何分にもテープをたよりの記録ですので行きとどかない点多々あることと思ひます。また折角、貴重な研究資料を示めして発表された方々もあるのに、その大部分を割愛せざるを得ないことになりましたことも、まことに心苦しい限りです。この結果を反省し、次年度の記録については、総会の議決事項は簡潔に要点のみにとどめ、会員の皆様の発表要旨をあらかじめ一定枚数の原稿用紙にまとめていただき、それをいっしょに登載したらどうかと考えております。さらに白鳥に関する文献の要約紹介やら、会員の皆様からの随想・お便り欄なども設けたいと存じております。

その他、本紙の編集については、いろいろのご要望等も多いことと存じますが、現在の弱体な予算と事務局の体制のなかでは、せいっぱいのようです。

最後に400字150枚にも及ぶテープの記録作業を全面的にご協力くださった吉川吉枝理事に心から感謝いたします。(本田)